

国政の中枢を担う誇り

～国民の代表を支える究極のサービス業～



アフリカ 第134回IPU会議の様子



Usuda Hitomi
薄田 仁美

衆議院参事

- 千葉県出身
- 2010年4月 お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科入学
- 2011年8月～2012年1月 マンチェスター大学交換留学
- 2014年3月 お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科
英語圏言語文化コース卒業
- 2014年4月 衆議院事務局入局
- 2014年4月～ 国際部国際会議課IPU会議係
- 2016年7月～ 委員部第七課農林水産委員会担当

衆議院事務局の職員になるまで

大学1年の頃から、国家公務員の仕事に興味があり、公務員試験の情報は集めていました。国際的な仕事にも興味があり、サークルはESSに所属して英語力を磨き、フランス語学習にも力を入れて仏検準2級も取得し、卒業間近にはスイスに短期留学もしました。

就職活動の際には、様々な官庁や民間企業を回り、日本の社会全体の為になるような仕事がしたいと考え始めました。最終的に衆議院事務局に決めたのは、国の様々な分野の仕事に携わることができると思ったからです。また衆議院事務局の中には、調査局という調査に特化した部門があり、大学での卒業研究の際に研究調査の楽しさを知ったこともあり、調査の仕事にも携わることができる点に惹かれて、2014年4月から衆議院事務局に就職することを決めました。

衆議院事務局に勤めて

衆議院事務局の仕事は大まかに3種類に分けられます。第1に国会の本会議と予算委員会などの会議の運営、第2に国会議員が必要とする情報を提供するための調査、第3に、対外関係を含む、衆議院の活動を補佐する部門(国際部等)です。入局するまでは、職務は受動的で補完的なものだと思っていました。しかし、実際に働いてみると、能動的で包括的なものだとわかりました。議員の補佐においては、国会や国際会議等について議員以上に多くの知識を持ち、それを適切に使う必要があるからです。

最初に配属になったのは国際部国際会議課で、中でもIPU(Inter-Parliamentary Union、列国議会同盟)という、スイスに本部を置く国際組織による会議の担当になりました。国際会議課では、衆議院議員が国際会議に参加する際のサポートと、衆議院として国際会議を主催することが主な仕事です。最初の頃の仕事は、国際会議での決議の英語版を日本語に翻訳することで、その後、次の国際会議で必要となる文書作成を行っていました。

1年目の2014年度には4つの国際会議を担当しました。1つの会議に約半年間かけて準備を行うのですが、必要となる英語文書の翻訳が膨大で、作成しなければならぬ文書も山ほどあり、その大変さが身に染みました。

2年目の2015年度5月にはIPU世界若手議員会議東京会合を主催しました。66カ国から189

人の議員が参加し、フランス語のメールにも対応するなど、学生時代に学んだフランス語が大変役に立ち、国際政治におけるフランス語の重要性を再認識しました。

2015年度末には、それまで留守番をしていた国際会議に初めて出席できることになり、アフリカのザンビア・ルサカで開催された第134回IPU会議に参加しました。複数の予防接種を打つなど、出張準備にも時間がかかりました。ザンビアは想像していたよりも衛生的で、道路も整備されており、発展している国でした。紅茶が美味しく、現地の人々も小綺麗な服装をしており、植民地時代のイギリスの影響を強く感じました。外国議員が日本の議員と話す際の通訳、外国の議会議員との交渉、議員の発言の補佐や、2国間会談の設定と準備も行いました。病院等への議員の現地視察にも同行し、とても有意義な初めての海外出張となりました。

2016年度5月には第1回日韓議連未来対話という会議を東京で主催しました。この会議は前例がなく、様々な準備が手探りで、責任が重い業務を自分が任されたという点でも困難がありました。この会議は大きく報道され、反響が大きかったので、自分たちが作り上げたものが世に出ることの嬉しさを実感しました。会議では、今後の日韓の議会同士の交流を深めていこうという結論が出され、これからの日韓関係に寄与できるのではないかと期待を感じました。

会議以外では思い出深い出来事が2つあり、1つは国会の開会式に天皇陛下がご臨席された際、その式を傍聴できたことでした。衆参両議員の全員が集まり、圧巻でした。もう1つは、国会案内コンテストという衆議院職員が対象の行事です。これは年1回あり、職員が自分の視点を交えて国会案内をしました。通常業務で国会案内をしている職員も多い中、そうでない私も昨年このコンテストに英語で挑戦し、準優勝という結果をいただくことができました。国会に関する内容を英語でスピーチすることは想像以上に難しかったのですが、お茶大で人前で発表する力をつけたことで、この結果を出せたと思います。また、コンテストを通して、自分の職場をさらに好きになったように思います。

委員部農林水産委員会担当に異動して

2016年7月より、新たに委員部農林水産委員

会担当の配属になりました。この担当では、農林水産委員会の運営全般を行い、委員会の時は委員長横の机の席につき、議事進行の補佐を行います。農林水産委員会は、国会議員や政府が提出した法案の審査などを行います。これに関する公報や公文書等を起案し書類作成をすることが私の主な業務です。異動したばかりで仕事を日々覚えている段階ですが、今後の抱負としては、関連する法規(国会法、衆議院規則等)や先例(委員会先例集という、約500ページの本があります)をしっかり勉強し、どのような場面においても委員会を円滑に運営できるようになりたいと考えています。

学生へのメッセージ

私は、仕事に行き詰まった時は国会議事堂の前を散歩します。議事堂の美しさとパワーを感じ、ここに就職したいと思った理由を思い出し、前向きになれるからです。みなさんは、どんな進路を選ぶべきか悩む事もあるでしょうし、その答えを見つめるのは難しいことです。でも、進んだ道で行き詰まった時に、「しっかり考えて今の道を選んだ」と思い出せば救われます。そうなるよう、自分がどうなりたいかをたくさん考える事が大切だと思います。

私は、異動した今、国際会議課であらゆる困難を切り抜けた経験のおかげで、現在の仕事も落ち着いてこなせていることに気づきました。一見関係のないことでも、前の経験は次に関連していたのです。みなさんには、学生生活のときから、やりたいことを、一生懸命やってほしいと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授
山腰 京子

わたしのオフタイム

ダンス歴約10年で、今はサルサ(男性がその場で動きを決める即興のペアダンス)を習っています。時々社交場で初対面の人と踊り、楽しんでいます。

